

環境改善を実施した林内ホダ場土壌の放射性物質状況の変化 (3) - 環境改善 (A₀層除去) を実施してから約2年半後 (27年4月) の結果 -

1 はじめに

土壌に含まれる放射性物質がホダ木に及ぼす影響を抑えるために、堆積有機物層 (A₀層) の除去 (環境改善) が行われています。環境改善による土壌の放射性物質濃度 (以下「濃度」と記す) の低減効果は、実施の1年半後でも持続することが明らかになっています (林業技術情報No.65)。A₀層の濃度は、新たな落ち葉により上がる可能性がありますので、環境改善から約2年半後のA₀層の濃度と、地面1m²あたりの放射性物質量 (以下「量」) を測定し、これまでの結果 (No. 60, 65) と比較して、環境改善の効果の持続性を明らかにしました。

しかし、除去区の濃度 (青矢印) は依然として各調査地で非除去区 (赤矢印) より小さな値を示し、1m² 当たりの量も、除去区 (図下段、青矢印) が非除去区 (赤矢印) の1/2~1/3程度でした。また、各調査地で樹上から枝葉が落ちていましたが (写真)、1m² 当たりの量は、前年より減りました。このことから、枝葉の濃度も下がっていると思われます。



除去2年半後の除去区の地表 (スギ林)

2 調査方法と結果

【方法】平成24年11~12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地に、A₀層除去区と非除去区を設けました。環境改善から約2年半後 (平成27年4月) に、各区内の13~16点からA₀層とA層を採取して、生重量当たりの濃度と量を求めました。(採取方法はNo.60参照)

【結果】環境改善の2年半後に、林床は落葉で覆われていました (写真)。すべての調査地で、除去区 (A₀層) から放射性物質が検出されました (図上段、青矢印)。

3 成果の活用

除去区の値は依然として非除去区より低く、環境改善の効果は除去の2年半後も続いていることが確認できましたが、放射性物質は依然として地面に存在するので、今後も栽培管理を確実に実施する必要があります。

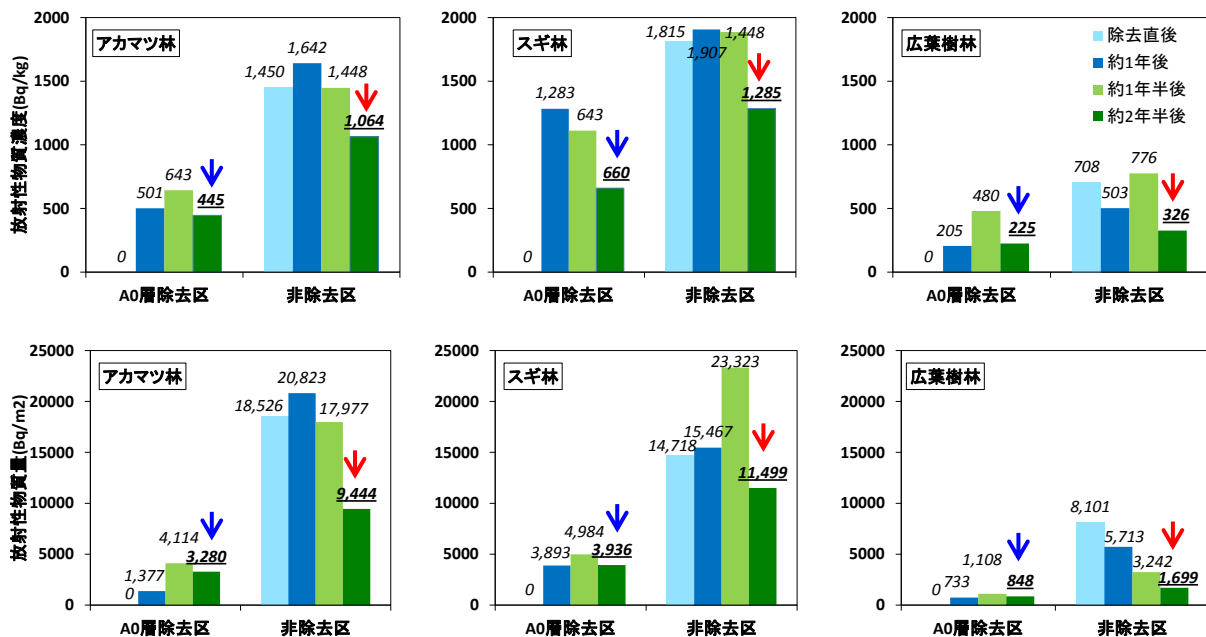


図 A₀層の放射性物質濃度 (上段) と放射性物質量 (下段)

棒の上の数字は測定値。最新(H27)の値は太字+下線で示した。

(担当 研究部 主査専門研究員 成松 眞樹)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/	TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410
-----	--	--------------------------------------

